

5. 土木デザイン

●出島ハーバー



○安全性を確保しながら杭を極力細くし、シンプルかつ機能的なデザインとして設計。

●ながさき・でじま 海の駅ロゴマーク

○新たな掲示板をすることで出島ハーバーの景観を損なわないよう、浮棧橋の連絡橋の配電盤を活用。



●ながさき出島道路トンネル坑口部・道路標識・電気室等・高架橋



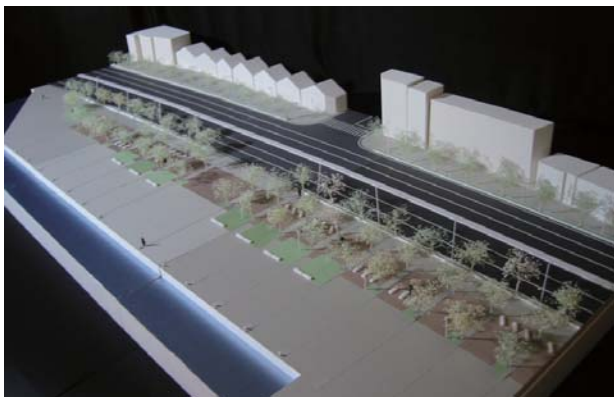
○坑口部は、法面を極力壊さない形の竹割式を採用。

○電気室と下水道ポンプ場の合築建築物（左写真左側白い3階建物）は、ファサードの素材、色、窓の大きさを工夫し、できるだけ目立たせないよう配慮。

○高架橋は、当初はレンガのイメージだったが、重い雰囲気になるのを避けるため、桁下を薄くし軽やかなイメージとなるよう工夫。



●元船ふ頭デザイン



○歩道沿いの広場状のスペースを、植栽は2列植栽、舗装はボードウォークと石貼舗装としてデザイン。

○係船柱にLED照明を埋め込み、転落防止のフットライトを整備。

●防風フェンス



○強風や波といった自然の力を受け止める構造物としての力強さを表現すべく、基部は安定感のあるPC製を採用。

○繊細な鉄骨の部材や、彩度・明度の低い色彩の採用により、対岸から見た時の存在感が薄くなるよう配慮。

●松ヶ枝岸壁のエプロン等整備（国）



- 国の直轄事業にアーバンデザインシステムを適用。
- 舗装は常盤・出島地区に合わせ、フェンスを目立たなくすることで海を近くに感じられるよう配慮。

●松ヶ枝橋下流側下水道工事（長崎市）



- 市の工事にアーバンデザインシステムを適用。
- 環長崎港地域で推奨している白色を用いたデザイン。
- 存在感を軽減するため杭のSPANや位置、大きさを工夫。

●松ヶ枝立体駐車場の外壁補修



- 環長崎港地域での統一された景観形成を目指し、白色を基調としたデザインを採用。

●水ノ浦(1) 地区急傾斜地崩壊対策



- なるべく緑化できるような工法を採用。(写真はイメージパース)
- コンクリート枠は落ち着いた色を採用。
- 地面に接する部分は光を反射しないブラウン系のタイルを張付。

●中島川バイパス水路



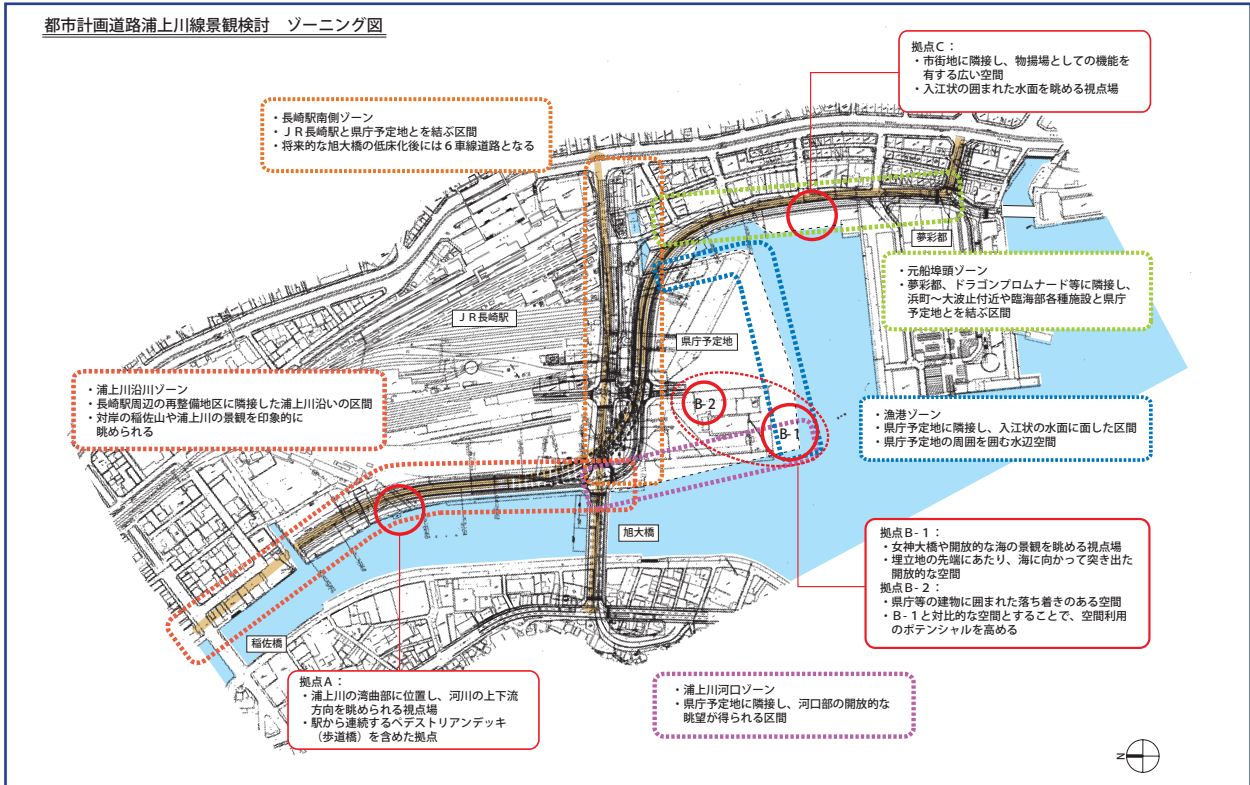
- 眼鏡橋の現地保存と現在の景観の保全を前提に、開口部を小さく見せる工夫や合流部のイメージを高めるようデザイン。

●中央橋の架け替え



- 現在慢性的な交通渋滞が発生している中央橋の架け替え、及び歩道橋の撤去を検討。
- 架け替え後の舗装や高欄、親柱、橋詰め広場、植栽、付属建築物などを検討。(写真は検討案の一つ。)

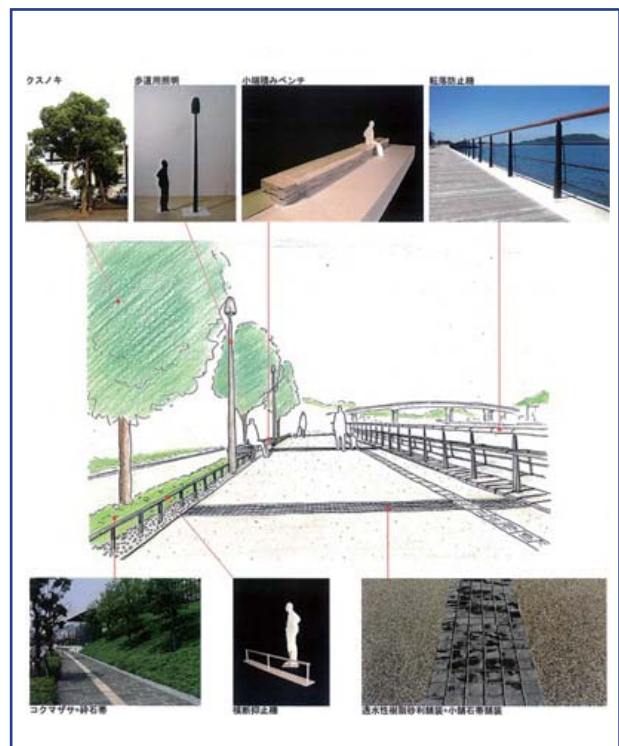
●都市計画道路浦上川線景観整備検討調査



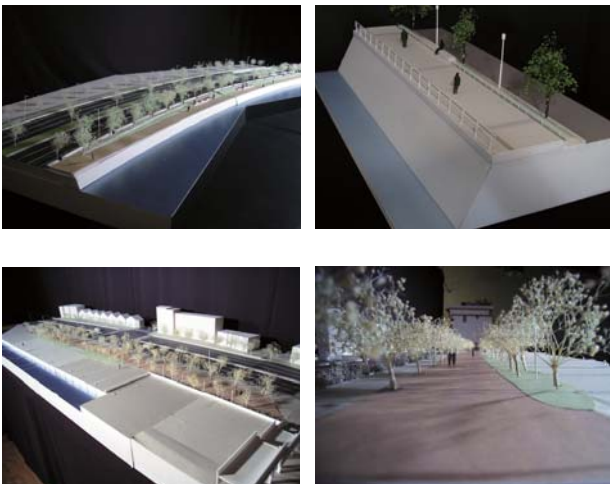
・基本的な整備の方向性

- ①歩行者が安全で快適に利用できる水辺のプロムナードの形成
 - ・プロムナードとしての連続性の確保
 - ・散策路沿いの緑陰・休憩空間の確保 他
- ②長崎港や浦上川の水辺、周囲の山並みの風景を体感できる景観の形成
 - ・海や山並みへの眺望を得られる視点場空間の整備
 - ・JR長崎駅からの進入部における景観演出 他

【浦上川線一般部イメージ図】



【浦上川線全体模型写真】



出島ハーバー

■施設の概要

- ・プレジャーボート（10 m級以下）24 隻が一時係留できるような小型浮棧橋 2 基
- ・中型帆船、大型クルーザー等の一時係留場所として浮棧橋 70 m

■アーバンデザインの観点から意図したこと

- ・3つのピア（棧橋）が自己主張しすぎないように、かつ「お洒落に」デザイン。
- ・海海面上に出る杭の太さを強度を保ちながら極力細く設計。
- ・陸上部と浮体構造物をつなぐ斜橋は、車椅子対応の幅員に設計し、手すりもシンプルにデザイン。
- ・浮体構造物の天板を木製とすし、門、斜橋杭等の付帯施設は、白、灰色、黒などのモノトーンに統一。



ながさき出島道路トンネル坑口部

■施設の概要（ながさき出島道路）

- ・一般国道 324 号のバイパス
- ・長崎市新地町（市民病院前）～（九州横断自動車道長崎大分線の起点である早坂町を經由）～長崎市田上町（転石）

■アーバンデザインの観点から意図したこと

- ・当初は、一般的なボックス型のトンネル坑口部を構想。
- ・①後背斜面緑地との調和、②人や車に対する視覚的な圧迫感の回避を図るため、白を基調にしなが竹割式の坑口部に変更。

【新デザイン】



【旧デザイン】

